

ランチオンセミナー 16

テーマ：トラネキサム酸と新規ビタミンC誘導体の機能性とその応用

司会：慶應義塾大学医学部形成外科学教室教授 貴志 和生 先生



ランチオンセミナーは整理券制となります。セミナー開始5分後に整理券は無効となります。予めご了承ください。

2014年4月11日(金)

12:00 ~ 13:00

長崎新聞文化ホール 珊瑚の間 (第5会場)

演題 1：イオン導入を用いたトラネキサム酸の応用

～高い密着性・水分保持力を有するバイオセルロースマスクシートとの併用効果～



AYAKO MORI

森 文子

ライフスタイルメディカルセンター
クリニックモリ 院長

トラネキサム酸は元来、止血剤や抗炎症剤として医療現場で広く用いられてきたが、現在肝斑治療に広く使用されている。肝斑には諸々の治療法が考案されているが、その多くはトラネキサム酸内服がベースになっている。しかし、実際の医療現場では、トラネキサム酸は内服すれば肝斑への効果はあるものの、中止すると再燃することが多く、結果的に内服治療が長期にわたることへの不安感などが指摘されていた。患者によっては、美容の為に薬を内服することを好まない場合もあり、トラネキサム酸の医療上の禁忌であるトロンビン投与中の場合以外にも、妊娠、授乳、飛行機搭乗前、抗凝固剤全般内服中など、処方のためらうことが少なくない。そこで、今回我々は、トラネキサム酸が外用でも肝斑に効果があるかを検証するため、トラネキサム酸含有ローションを製し、その美白効果を評価した。また、トラネキサム酸が肝斑へ抗炎症効果によって改善させるものであるなら、赤ら顔にも良い効果がある可能性があると考え、試験の対象とした。また、ローションを外用するだけでなく、高い密着性・水分保持力を有するバイオセルロースマスクシートとの併用についても試験を行ったので、その結果について紹介する。

演題 2：新規ビタミンC誘導体 GO-VC の機能性と院内での応用



TAKESHI NAGATA

永田 武

株式会社アイ・ティー・オー
プロビタミンリサーチセンター
主任研究員

ビタミン C(VC) 誘導体は、高いスキンケア機能のある化粧品原料であるが、既存品は安定性が不十分で皮膚の乾燥等の副作用を誘導する。最近開発された両親媒性でノニオン型のグリセリルオクチルアスコルビン酸 (GO-VC) は、グリセリンとオクタノールを持ち、高い安定性、吸収性、保湿性と抗菌性が期待される。メラニン産生抑制作用、線維芽細胞増殖作用及びコラーゲン産生促進作用も確認され、臨床試験でもニキビ、色素沈着、毛穴、シワに対する効果が確認されている。今回は、この GO-VC の機能性について紹介するとともに、従来の VC 誘導体との使い分け、院内製剤の作製方法、保存方法などについても詳しく紹介する。

株式会社アイ・ティー・オー



東京都武蔵野市中町 1-6-7-3F

TEL: 0120-31-6588

FAX: 0120-83-6566

URL: <http://www.provitamin.jp>

無償サンプルあり

共催：第 57 回日本形成外科学会総会・学術集会
株式会社アイ・ティー・オー